

# Inboxによるカレンダー情報の整理の評価

平成27年2月13日

岡山大学 工学部 情報系学科

池田 ゆう子

# 研究背景

情報は整理することで有効活用可能

整理されたカレンダー情報: 将来の計画立案に有用

タスク: カレンダーの予定に相当

カレンダー情報の整理: 周期性や関連性に基づいてタスクをまとめること

例1) 同じ周期性を持つ「第1回会議」と「第2回会議」を1つにまとめる  
→ 「第3回会議」の実施日の検討が容易

例2) 同じ関連性を持つ「会議」と「会議通知」を1つにまとめる  
→ 「会議」に「会議通知」が関連して発生することを把握可能

しかし, カレンダーは情報の整理には適していない

➡ Inboxによる整理手法が既存研究により提案

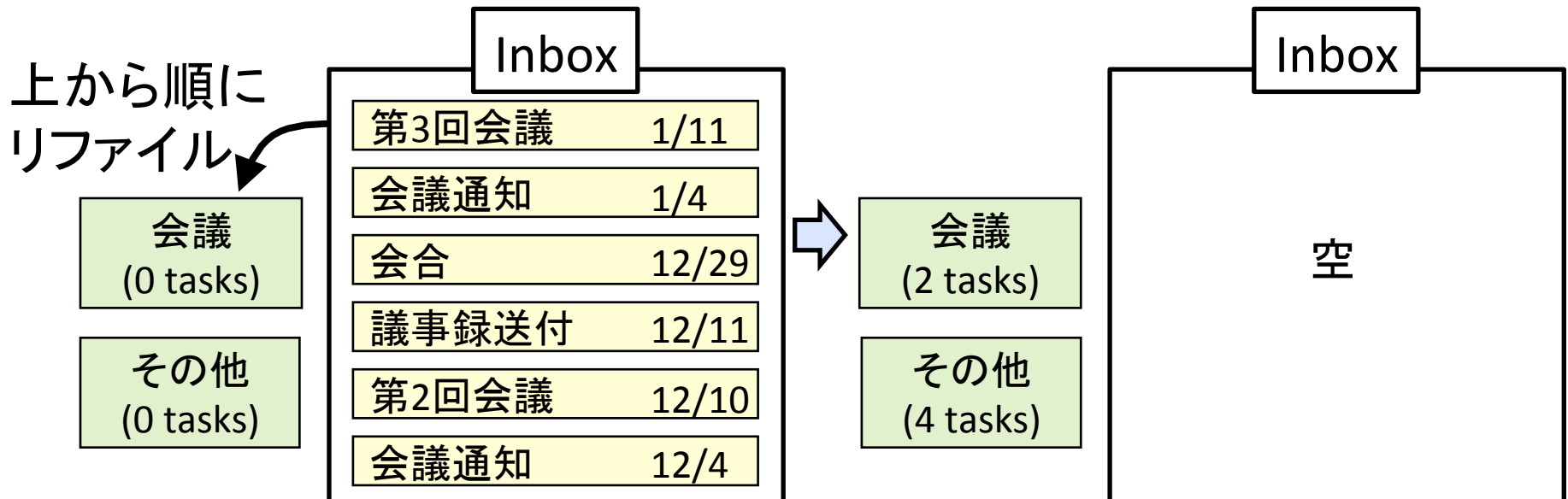
Inboxによるカレンダー情報の整理の有用性を評価

# Inboxによるカレンダー情報の整理

## <Inbox>

未整理のタスクを一覧表示し、フォルダにリファイルすることで整理

- (1) 整理範囲を明確に把握可能
- (2) 未整理と整理済みのタスクを区別可能
- (3) 実施日に依らず未整理のタスクを一覧表示可能



# 評価項目

## <評価1: 注目されなかったタスクの数を比較>

Inbox: 整理範囲を明確に把握可能

カレンダー: 整理範囲を正しく定められない

## <評価2: 未整理か否かの判断を誤ったタスクの数を比較>

Inbox: 未整理と整理済みのタスクを区別可能

カレンダー: 未整理か否かの判断を誤る可能性がある

## <評価3: 整理にかかる時間を比較>

Inbox: 実施日に依らず未整理のタスクを一覧表示可能

カレンダー: 未整理のタスクを探す手間が大きい

# 評価準備

## <初期データ>

- (1) 実験協力者: 5名
- (2) 使用データ: 各ユーザのGoogleカレンダーに登録済みのタスク
- (3) 使用するデータの期間: 2013年4月～2014年3月

## <評価手順>

- (1) カレンダーとInboxで以下の工程を12カ月分行う
  - (A) 1カ月間に登録されたタスクを評価実験用カレンダーに切り出す
  - (B) 評価実験用カレンダーのカレンダーの情報を整理を行う
- (2) カレンダーとInboxの整理の間は1週間以上空ける

# 評価1: 注目されなかったタスクの数

## <Inbox>

注目されなかったタスク: 0%

## <カレンダー>

実験協力者	A	B	C	D	E
全タスク数(件)	416	104	77	77	77
注目されなかった タスク数(件)	7 (1.7%)	8 (8.0%)	2 (6.0%)	3 (4.0%)	2 (6.0%)

注目されなかったタスク: 1.7%～8.0%

Inboxでは、整理範囲を正しく定められる

# 評価2：未整理か否かの判断を誤ったタスクの数

## <Inbox>

未整理か否かの判断を誤ったタスク: 0%

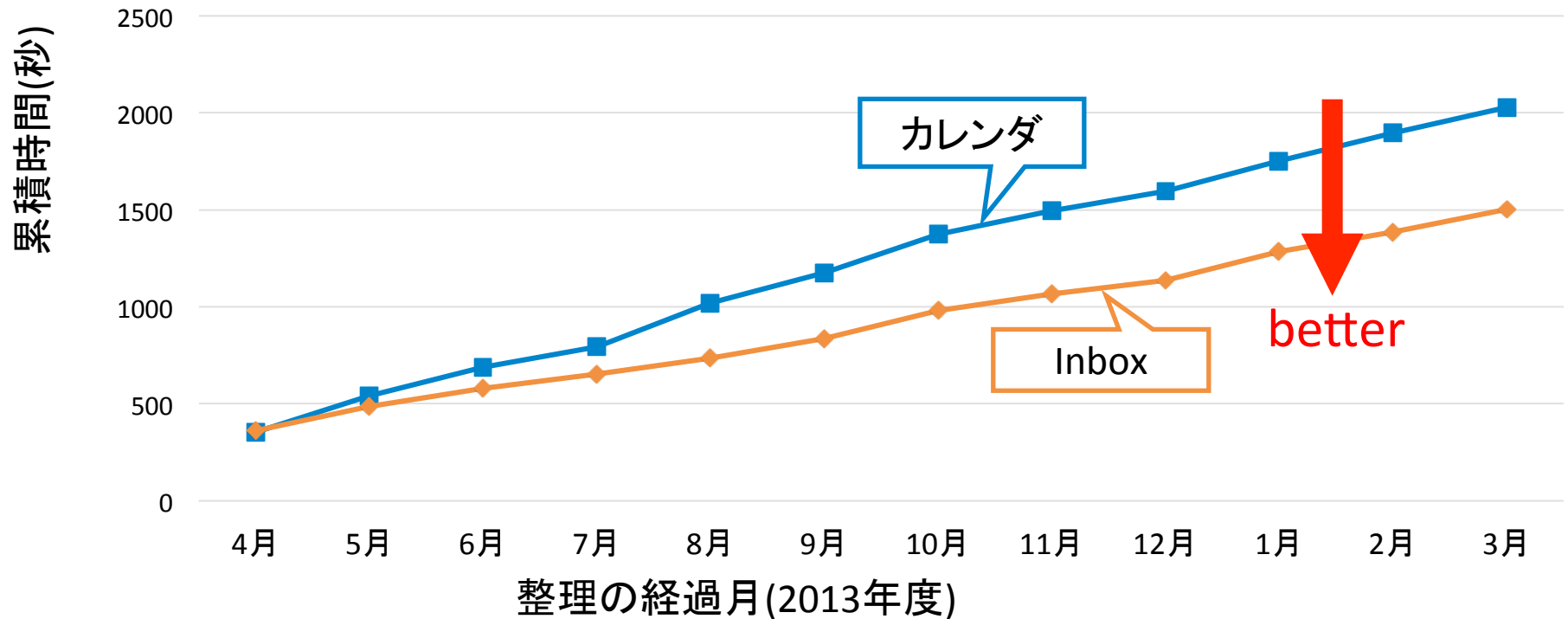
## <カレンダー>

実験協力者	A	B	C	D	E
全タスク数(件)	416	104	77	77	77
未整理か否かの判断を誤ったタスク数(件)	25 (6.0%)	16 (15.4%)	13 (16.9%)	8 (10.4%)	20 (26.0%)

未整理か否かの判断を誤ったタスク: 6.0%～26.0%

Inboxでは、未整理と整理済みのタスクを区別可能

# 評価3：整理にかかった時間



## <両者の差の要因>

- (1) 整理範囲を定めるために発生する手間
- (2) タスクを探す手間
- (3) タスクが未整理か否かを判断するために発生する手間



# まとめ

## <実績>

- (1) カレンダー情報の整理手順を詳細化
- (2) カレンダーインタフェースによるカレンダー情報の整理の問題点を明確化
- (3) Inboxによるカレンダー情報の整理を提案
- (4) Inboxによるカレンダー情報の整理の評価
  - (A) 注目されなかったタスクの数
  - (B) 未整理か否かの判断を誤ったタスクの数
  - (C) 整理にかかる時間

# 予備スライド

# カレンダー情報の整理

## <周期性と関連性>

カレンダーのタスクには周期性や関連性が存在

例) 定例会議は、約1カ月に1回発生する (周期性)

定例会議には、会議通知や議事録送付が伴う (関連性)

➡ タスクを周期性や関連性に従って整理可能

## <カレンダー情報の整理>

- (1) 周期性や関連性を表すタスクの集合を作成
- (2) リカーレンス: 同じ周期性を持つタスクの集合
- (3) ミッション: 同じ関連性を持つタスクの集合

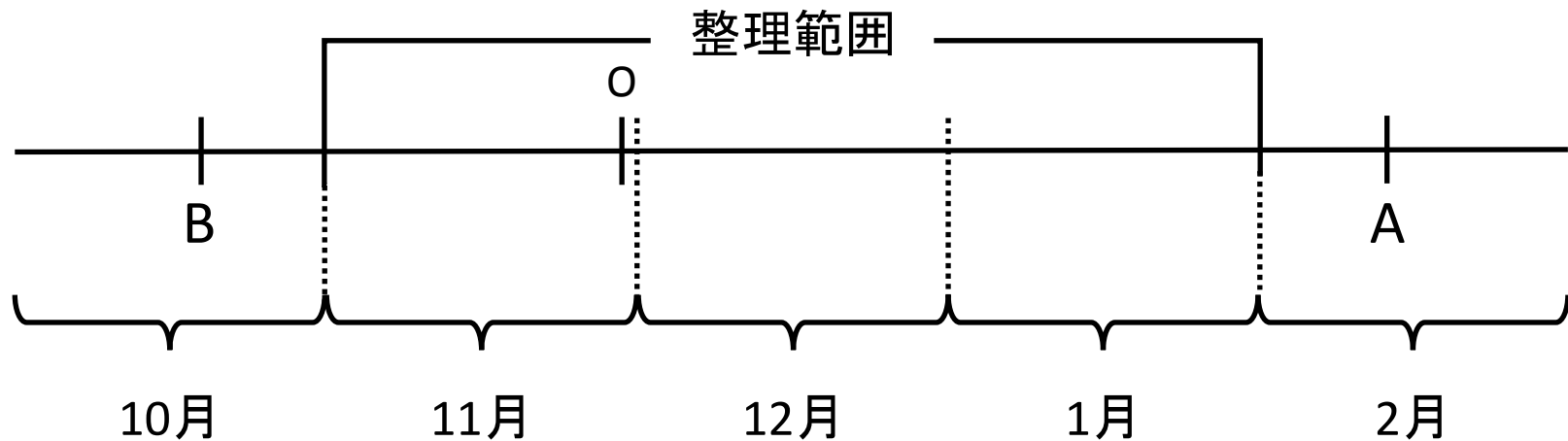
# 問題1: 整理範囲が正しく定められない

**整理範囲:** ユーザが未整理のタスクが存在すると考える範囲

カレンダー情報の整理では、整理しながら整理範囲を定める

**しかし**, カレンダーではどこに未整理のタスクが存在するかわからない

➡ 整理範囲外に存在するタスクを見落とす



# 問題2: タスクが未整理か否かの判断を誤る可能性がある

## <未整理のタスク>

1度も周期性や関連性を持つか否かを吟味されていないタスク

## <整理済みのタスク>

すでに整理されたタスク

- (1) 周期性を持つと判断済みのタスク
- (2) 関連性を持つと判断済みのタスク
- (3) どちらも持たないと判断済みのタスク


未整理と整理済みのタスクが同じように表示され区別できない

 タスクを整理し損ねる

# 問題3: 未整理のタスクを探す手間が大きい

## ＜未整理のタスクを探す手間＞

- (1) 整理範囲を定めるために発生する手間
- (2) タスクを探す手間
- (3) タスクが未整理か否かを判断するために発生する手間

 整理が繁雑になる